

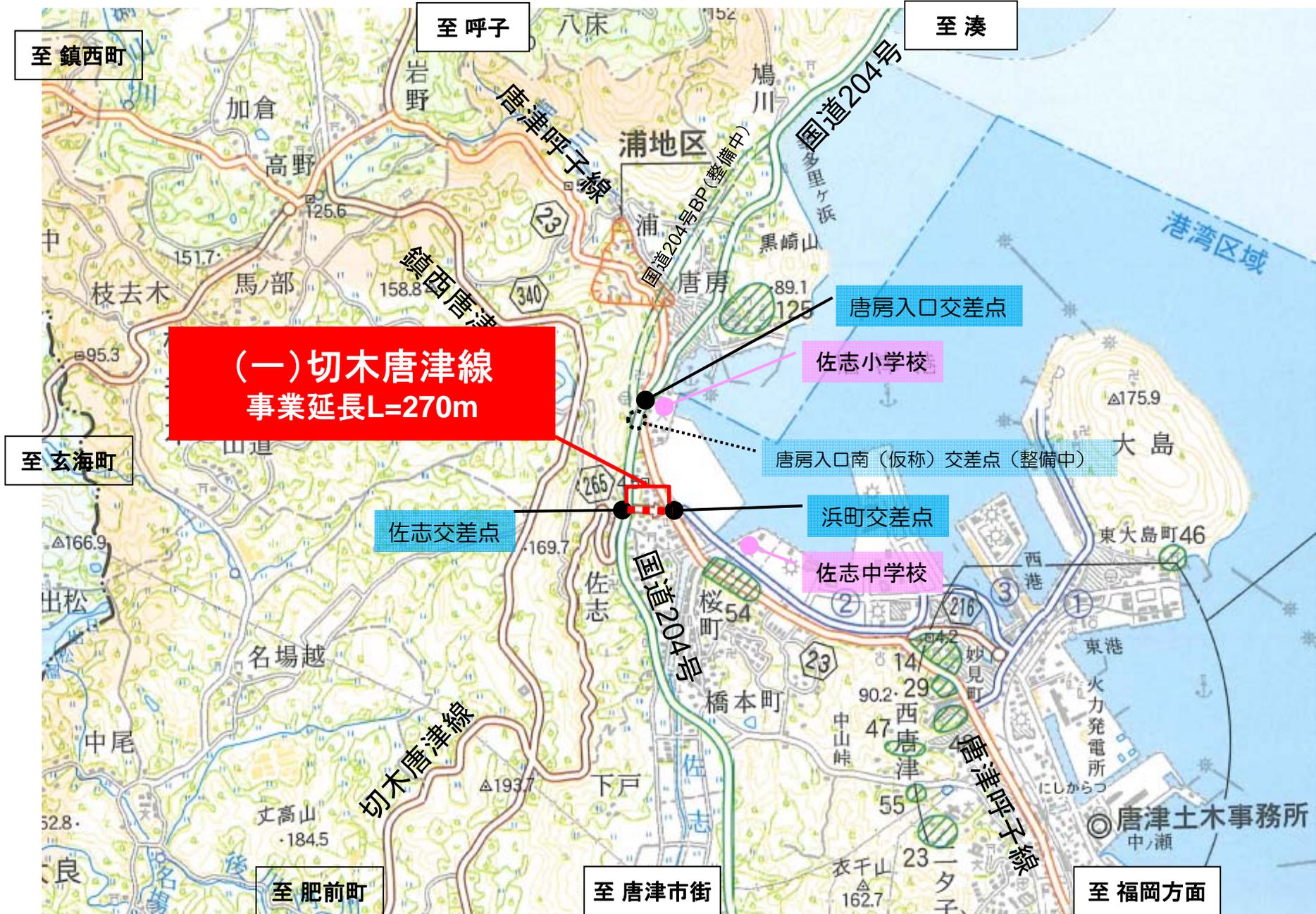
平成24年度 再評価委員会

路線名：一般県道 切木唐津線

事業名：道路整備交付金事業

(着手より10年経過のため再評価)

一般県道 切木唐津線 位置図



事業目的

1

センターラインがない狭小車道



歩道がなく
歩行者が危険

2

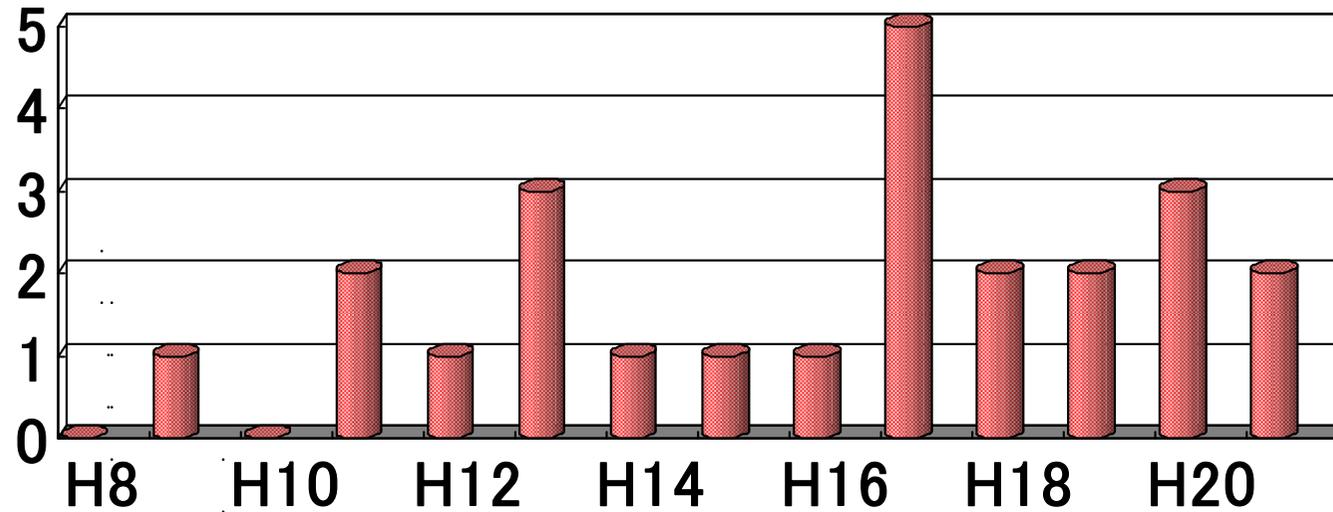


車道拡幅及び歩道整備により

事故防止、歩行者の安全確保

- 事故の発生状況。過去14年間(H8～H21)で**24件**。

(件)



凡例	
★ (Blue)	1～5件
★ (Yellow)	6～10件
★ (Red)	11～ 件

事業概要

- 全体事業費：8.5億円
- 工期：平成15年度～平成25年度（予定）
- 全体延長：L=270m
- 事業内容：改良工 L=270m
用地買収 1,663m²
家屋補償 12戸

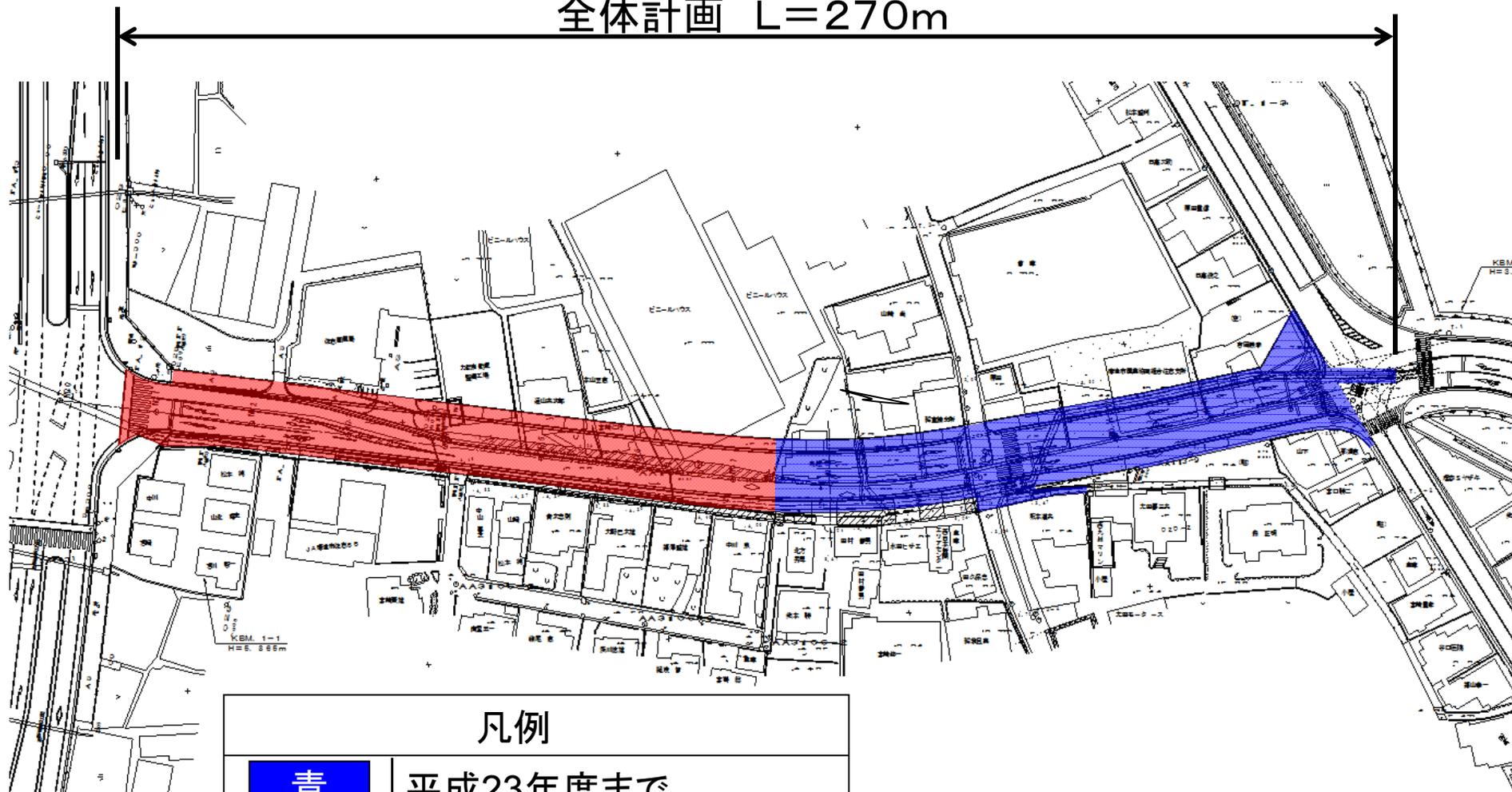
事業の進捗状況

	平成23年度まで	平成24年度	平成25年度以降
事業費(億円)	7.2	1.1	0.2
進捗率(%)	84.7	97.6	100.0
用地進捗率(%)	100.0	100.0	100.0

一般県道 切木唐津線 平面図



全体計画 L=270m

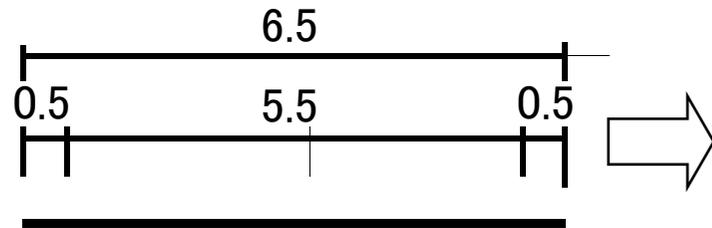


凡例	
青	平成23年度まで
赤	平成24年度施工箇所
黄	平成25年度以降施工箇所

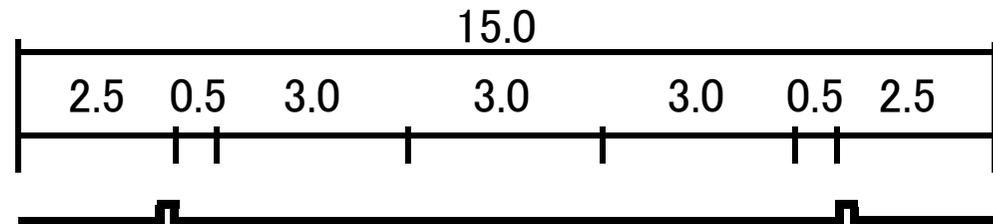
※H25年度予算業務(予定)
道路台帳作成、事業損失補償等

一般県道 切木唐津線 横断図

現況



計画



平成24年 現地状況



中間から起点側を望む



起点から終点側を望む

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- バイパスの開通による交通量の増加

これまでに佐志バイパス(1工区:H15、2工区:H18)が開通し、更に平成30年頃には、現在整備中の唐房バイパスが開通予定であり、湊方面への通過交通は唐房入口南(仮称)交差点を利用することとなるため、切木唐津線のさらなる交通量の増加が予想される。

費用対効果の要因の変化

- 事業採択時と比較して大きな要因の変化は見られない。

$$\text{費用便益比 (B/C)} = 12.9 / 8.9 = 1.4$$

- 【便益】

走行時間短縮便益	=	12.0億円
走行経費縮小便益	=	0.8億円
交通事故減少便益	=	0.1億円
合計		12.9億円

- 【費用】

事業費	=	8.8億円
維持管理費	=	0.1億円
合計		8.9億円

コスト縮減や代替案等の可能性

(コスト縮減)

- 再生資材や現地発生品の利用促進を図っている。
- 工事で発生する残土を盛土等に流用する。
- 施工方法の見直し(仮設矢板→大型土のう)を行っている。

(代替案の検討)

- 特になし

対応方針(事業課案)

- 事業の必要性に変化が無い。
- 現在も、依然として交通の円滑化と交通安全の確保が出来ていないことから、引き続き事業を継続したい。